函館のまちづくりを考える
はこまち通信
2009
第8号
発行 ： 函館市地域交流まちづくりセンター
http://www.hakomachi.com/

TAKE FREE
ご自由にお持ちください！

もくじ

・特集 はこまち対談 「まちづくり支援センターの役割」
～日本ＮＰＯセンター　新田英理子さん～
・シーニックバイウェイ北海道
・開明都市函館の遺産「重要文化財」（その３）
・函館のＮＰＯレポート！
・開港１５０周年記念事業について
・「まちのチカラ」サポートデスク ～定年後の「生き甲斐」について～
・センター長のつぶやき

はこまちプレイバック「まちセンを坂側から見ればの巻」

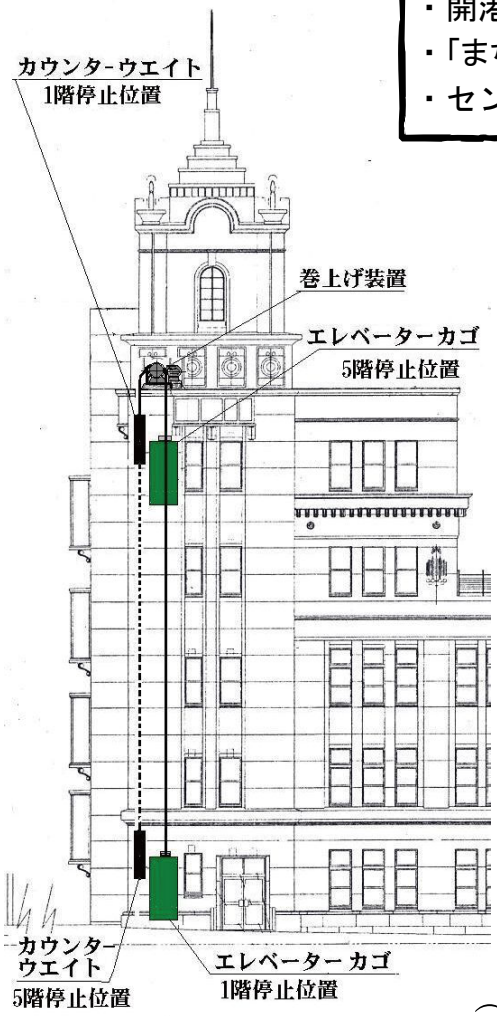
左図の図面は南部坂から見たまちセンの建物です。この建物は大正十二年の復元として紹介していますが、この後部は昭和五年の建築のままなのです。なぜならばこの部分はエレベーターの稼働部分であり従って大正十二年を忠実に再現することはエレベーター部分も無くなってしまいます。

五階の上にそびえ立つ塔は昔から丸井今井デパートの象徴でした。この塔内部に何があるのでしょうか？

この塔の高さに比べて内部はエレベーターの巻上げ装置と配電盤しかなく天井まで空間部分が多くを占めています。

この付近にある塔付の建物といえば、いわずと知れたハリストス正教会やカトリック教会があり、これらの塔から鐘の音を天空に奏でています。

この建物の塔もこうした周りの景観にあわせ造られたのではないでしょうか。



＜南部坂から見たまちセンの図＞

塔内に設置したエレベーターの巻上装置モーターは意外に小さいものが使用されています。小さなモーターでよいのはカウンターウエイトがあるからです。

このカウンターウエイトはエレベーターのカゴの重量より重いオモリをカゴの反対側に取付け、カゴと吊り合せることによりモーターにかかる負荷を少なくしています。この方法だと無駄な電力の消費もなく、まさにエコ時代の走りのアイデアなのです。

（m・s）

特集 はこまち対談

Part 7

まちづくり支援センターの役割

新田 英理子（にった えりこ）氏

〈PROFILE〉

特定非営利活動法人 日本 NPO センター企画主任。
富山県高岡市生まれ。大学卒業後、民間企業の社員教育部門に勤務。96年9月に退社。環境NPOなどでの嘱託スタッフやボランティアを経験後、98年4月より日本ＮＰＯセンターの職員となる。主に交流・研修事業と相談事業を担当し、NPO 向けの講座、研修、全国大会などの企画・運営を行なっている。また、企業の社会貢献プログラムの相談やＮＰＯの運営相談の応対も行っている。ボランティアチームで進めている会員向け機関紙『ＮＰＯのひろば』の編集事務局も担っており、多様な人々の参画によって物事を創り出す喜びを大切にしている。

今回は、 日本NPOセンターの主任研究員として、 全国を飛び回りながらNPOの支援をしている新田英理子さんに、お話を伺いました。

丸藤：日本ＮＰＯセンターの役割を教えてください。

新田：活動の目的は、市民活動自体がどうやったら発展するかということと、企業や行政とのパートナーシップをつくっていこうということです。具体的に言うと、ＨＰや出版物などを使っての情報発信。団体の設立や運営に関する相談・企画協力。研修や交流のための講座とかフォーラムの企画運営。ＮＰＯをとりまく課題解決に向けた調査・研究。組織の立ち上げや運営に協力するためのファンドへのサポート。ＮＰＯや企業行政などセクターや地域を越えた分野の交流や対話の場づくり。ＮＰＯ制度や公益法人制度が監督的にならず市民の力が活かされるようなより良いものにしていくための提言、といった七つの柱で活動しています。

丸藤：まさにＮＰＯのための環境整備ですね。

新田：日本ＮＰＯセンターが言うＮＰＯとは、ＮＰＯ法人だけでなく、公益法人や財団・社団法人も含むし、任意団体も全部含んでいて、民間の立場で非営利で活動していて、今の世の中をなんらかの形で変えていきたいと思っている団体のことを呼んでいます。
その中で私が主に関係しているのは、相談にのったり多くの人を巻き込んでやるフォーラムなどの企画をしています。でも、実はスタッフが全部で５人しかいないので、なんでもやっているんですよ。(笑)

丸藤：２００３年には、北海道でＮＰＯ全国フォーラムを開催しましたね。

新田：全道のＮＰＯの人に集まってもらい、全国から人が来るフォーラムを行いました。その時のテーマ「地域をこえ、分野をこえ、セクターをこえ」は、日本ＮＰＯセンターの設立当初か

らのキーワードでもあります。

丸藤：私も、当時ＮＰＯをまったく知らなかったのに実行委員として参加していました。気がつくと、今つながりがある人の多くは、その時知り合っていたんです。

新田：北海道のＮＰＯって開拓精神があって、しがらみなく団体が作られる点は都会的だなと思います。新しいものを取り入れたり、人がつながっていて気さくに紹介してくれるなど、フットワークが良い印象がありますね。

丸藤：新田さん自身がＮＰＯに興味を持たれた切掛けはなんですか？

新田：直接的には、大学時代にタイに行ったことです。日本がこんなに豊かなのに、なぜタイにはスラムがあるのだろうと疑問に思い、実際に見に行きました。そこで支援をしている人は政府とか国連とか役人とかとなんの関係もなく、もの凄く自然体で助けたいから助けるんだという気持ちでやっていること、そういうのをＮＧＯと言うんだと知ったんです。で、いつかはその世界に行きたいなと思っていたのですが、でも食べられそうもないし（笑）まだ助けるパワーもないなと思って普通の企業に勤めたんです。しかし、企業の方針に共感できなくて・・・。私には何かに物凄く特化した当事者というものは無いので、日本ＮＰＯセンターのように支援するようなところが働きやすいのだと思います。

丸藤：最近のＮＰＯの課題は？

新田：団体のことでいうと、今、ＮＰＯというのは物凄く幅が出て来たので、単に法人格を持っているからといってＮＰＯと言っていいのかという疑問も出てきています。一番大事な、社会を変えたいという思いで共感を得るとかがなくて、自分のやりたいことだけやってればいいという団体があることが残念です。

丸藤：ＮＰＯがスキルアップしていくためには、何が必要でしょうか？

新田：団体として活動の幅を広げていきたいというのであれば、団体の予算の３分の１程度の額の助成金の獲得にチャレンジしてみてはどうでしょうか。助成金というのは、団体を維持するお金じゃなくて新しい取り組みに対して出されるお金です。全国には様々な助成金がありますし、北海道にはＮＰＯバンクもあります。お金を借りて返すぞ、くらいの意気込みでチャレンジしてもいいと思います。それと、中長期的なビジョンの議論も必要です。会議の時に目の前の事業の話しばかりするのではなく、組織としてどうありたいか、将来の団体の姿はどうしたいのかをきちんと話していないと思いには到達できません。やりたいミッションはあっても、組織としてのイメージがない団体がけっこう多いんですよね。

丸藤：全国のまちづくりセンターや支援センターを見てきていると思いますが、アドバイスをお願いします。

新田：丸藤さんは、フットワーカーやネットワーカーとして絶対に外に出るべきです。現場をたくさん見て体験しなきゃ支援なんてできませんし、全国を見て来て、そこで得たものをセンターに活かすというのがなきゃ支援にはなりません。それを実現させるために、外に出るスタッフと施設を守るスタッフがいるような制度設計が必要ですよね。外に出ることは、本当に大切なことです。

それから、行政などとの対話をしていくことですね。

丸藤：その手始めとして、日本ＮＰＯセンターが行っている研修に参加したいですね。

新田：ぜひぜひ、お待ちしています。（笑）

＜聞き手＞
函館市地域交流まちづくりセンター長

丸藤競

シーニックバイウェイ北海道
函館・大沼・噴火湾ルート

シーニックバイウェイ北海道「函館・大沼・噴火湾ルート」運営代表者会議は、今年度も様々な活動に取り組んできました。
ここでは、それらの抜粋した活動を取り上げ、下記に紹介します。

函館・大沼・噴火湾ルート
Hakodate-Onuma-Funkawann Scenic Byway

汐首岬灯台におけるシーニックデッキ設置に向けた検討

【内　容】ルート内のビューポイントである汐首岬灯台におけるシーニックデッキ設置に向けた検討を行った。まず灯台の付近の事前調査を行い、灯台の管理者である函館海上保安部にシーニックバイウェイ北海道やシーニックデッキ設置に向けたルート運営代表者会議の意向を伝えるなどして、灯台開放に向けた協議を重ねてきた。まだ灯台開放の了承は得られていないが、今後モニター調査やアンケート調査を実施し、ビューポイントとしてのニーズ把握やPRを行う（平成21年4月予定）ことにより、シーニックデッキの実現に向けた取り組みを継続していく。
【日　時】平成20年7月～平成21年3月
【場　所】函館市
【主　催】函館・大沼・噴火湾ルート運営代表者会議事業分科会

函館・大沼・噴火湾ルート
Hakodate-Onuma-Funkawann Scenic Byway

シーニック清掃活動

【内　容】4月29日を“シーニックの日”に制定し、ルート内の各地域で一斉に清掃活動を行う取り組みとして、今年度から始まった。今年度は、函館市では五稜郭タワー周辺及び函館市地域交流まちづくりセンター周辺、七飯町では田園通り及び大沼周遊道路で実施した。
【日　時】平成20年4月29日（祝）　8:00～12:00
【場　所】函館市・七飯町
【主　催】函館・大沼・噴火湾ルート運営代表者会議
【協　力】（株）五稜郭タワー、自然公園財団大沼支部、山川草木を育てる会大沼本部、函館開発建設部、七飯町

函館・大沼・噴火湾ルート
Hakodate-Onuma-Funkawann Scenic Byway

シーニックdeナイト

【内　容】今年で3年目を迎えるシーニックdeナイト2009。キャンドルづくりから、冬の夜空の下道路沿いにキャンドルを設置・点灯する地域住民参加型のイベントである。年々、実施地域・参加団体が拡大し、地域の輪が広がってきている。
【日　時】平成21年2月7日（土）～平成21年2月15日（日）
【場　所】函館市・七飯町・八雲町
【主　催】シーニックdeナイト2009実行委員会

函館・大沼・噴火湾ルート
Hakodate-Onuma-Funkawann Scenic Byway

ルートマップの作成

【内　容】地域活動団体がおすすめする情報を基にルートマップを作成した。ルートマップ表面では観光施設などのポイントを落としたルート全体のマップであり、ルートマップ裏面では、「食」をテーマとした市町の飲食店についての掲載を行った。
【日　時】平成20年4月～平成21年3月
【場　所】函館市・北斗市・七飯町・鹿部町・森町・八雲町
【主　催】函館・大沼・噴火湾ルート運営代表者会議事業分科会

函館・大沼・噴火湾ルート
Hakodate-Onuma-Funkawann Scenic Byway

函館新道における花の活動

【内　容】今年で5年目を迎えた函館新道における植栽活動である“はこだて花かいどう”。年々規模を拡大しており、片側600mの区間に花苗約10,000株、参加人数750人で6月に植栽活動を実施した。水やりや雑草取りなどの維持活動を経て、11月に撤去活動を行った。また、撤去した活動は次年度の肥料に再利用する堆肥づくりなど活動の幅も広がってきている。
【日　時】平成20年6月～平成20年12月
【場　所】函館新道
【主　催】函館花いっぱい道づくりの会

函館・大沼・噴火湾ルート
Hakodate-Onuma-Funkawann Scenic Byway

洞爺湖サミット記念の森事業

【内　容】この活動は、現在シーニックバイウェイ北海道で展開されている「シーニックの森づくり」に関連する事業であり、また、本年7月に洞爺湖にて開催されるサミットの記念事業として実施した。当日は約150名が参加し、ミズナラ1,400本の植樹を行った。
【日　時】平成20年6月1日（日）　9:30～12:00
【場　所】西大沼国有林
【主　催】函館・大沼・噴火湾ルート運営代表者会議

開明都市函館の遺産「重要文化財」（その３）

中尾 仁彦　箱館歴史散歩の会主宰
第１回 函館検定 上級試験合格

昨年「中空土偶」が北海道第１号の国宝に指定され、私たちは函館の文化財に対して認識を新たにしました。歴史上、芸術上、学術上価値の高いものを総称して有形文化財といいます。そのうち重要なものを「重要文化財」と呼び、さらに世界文化の見地から特に優れたものが「国宝」となります。開明都市函館に「重要文化財」は７件あります。その歴史を３回に分けてご紹介してきました。今回はその最終回です。

５．遺愛学院「旧遺愛女学校」本館・旧宣教師館

遺愛女学校は北海道で一番古い外国人経営の学校です。明治７年、米国メゾジスト監督協会牧師兼米国領事のハリス夫妻が聖書や英語の授業をした「日々学校」が始まりです。その後ハリス夫人の資金集めに共鳴したキャロラインライト夫人の献金により､明治１５年（１８８２年）に元町（現遺愛幼稚園地）に開校、当初はキャロラインライトメモリアルスクールで３年後に遺愛女学校と改名します。最初は異人学校といわれ生徒は集まらず、１・２回卒業生３名はすべて弘前出身でした。建学精神の信仰、犠牲、奉仕は徐々に理解され生徒数も増加、校舎は手狭となります。

明治４０年、時任牧場から購入した原野の現在地・杉並町に校舎を新築します。しかし、同敷地に建築中の寄宿舎が火事にあったため､開校は延期されます。

その間、明治４０年の大火で元町校舎が類焼、明治４１年に正式に杉並町に移転開校しました。同時に建築された旧宣教師館（通称ホワイトハウス）は歴代の宣教師や校長の住居として使用され、現在残されている家具は当時のままです。

設計は立教大学の初代校長・設計家でも著名なガーディナーで、明治村にある旧京都五条教会（重要文化財）が代表作です。材料はすべてアメリカから運ばれ、北海道で最初といわれる蒸気式暖房設備も設置されました。しかし、人家もない雑草地に移転したためいつ廃校かと囁かれたそうです。太平洋戦争末期に１年間日本軍司令部に接収され、軍靴の鋲の跡が現在も残されるなどの苦難を乗り越えました。校庭の７０種類の木々、１００種類以上の草花に囲まれた美しい校舎・宣教師館は現在も開校当事のまま整備され、明治期に建てられた文化財の指定を受けた木造校舎で、現在使用されているのは京都の龍谷大学と遺愛学院だけです。宣教師館は平成１３年国の重要文化財に指定、さらに学校本館は平成１６年に追加指定されました。

６．北海道志海苔中世遺構出土銭

昭和４３年７月、函館市志海苔町の漁港付近で道路の拡張工事の際、古銭３７万５千枚が発見され、日本でこれだけ大量に発見されたのは初めてです。推定１４世紀に作られた越前および珠洲産の大甕３個に入っており、当時日本で一般に流通していた中国の北宋銭が全体の約９割を占めております。日本銭は僅か１５枚しかありませんでした。

当時この一帯の質の高い昆布は「宇賀の昆布」として北陸経由で京都・大阪方面に運ばれ、一級品として珍重されました。１４世紀の松前家の記録「新羅の記録」には、室町前期に毎年３回若狭から志海苔の昆布を買い取るため箱館港に入港の記述があります。出土したすぐ近くに、アイヌとの戦いから和人を守るための志苔館があり、建造目的は産物出荷の流通拠点を確保するためでした。これらの古銭は産物交易の膨大な利益金と考えられます。しかし誰が何の目的で蓄え、かつ埋設したかは謎だらけです。平成１５年国の重要文化財に指定され、現在函館市立博物館に展示されております。

７・大谷派本願寺『東本願寺』函館別院

東本願寺の歴史は古く、松前の専念寺の僧が木古内町を経て河野館の跡地の箱館へ宝永7年（１７１０年）寺を建てます。その後現弥生小学校敷地に移転。当時は浄玄寺と呼ばれ、幕末から明治初年までアメリカ領事館、また明治５年に北海道最初の邏卒本営（警察署）が置かれます。明治９年に明治天皇が宿泊するなど当時から函館一の名刹です。明治１２年の大火で類焼、２年後に元町の現在地に移転します。明治４０年の大火で再び焼失、明治４５年に耐火建築で工事を始めました。しかし住民は鉄筋コンクリートを理解できず、足で踏みつけた砂等を使用することは不浄、またコンクリートは脆弱なため危険であり大屋根を支えきれないと寄付が思うように集まりません。そこで檀家総代の三代目渡辺熊四郎は、棟上式でコンクリートの高床に函館中の芸者を集めて手踊りをさせます。さらに見物人も上げその安全性を確認した逸話が残っております。

その結果、寄付金も順調に集まり始めました。設計は京都東本願寺大師堂を手がけた伊藤平佐衛門、建築は木田保造。金子利吉が製造した３万６千枚の瓦を使用した大屋根が圧巻です。大正４年、鉄筋コンクリート造りの日本最初の寺院として完成。平成１９年国の重要文化財に指定されました。

次号からは、函館の医療についてご紹介していきます。どうぞ、お楽しみに。

はこだてのＮＰＯ

函館には現在約 400 以上の市民活動団体があり、実にさまざまな活動が行われています。その中からピックアップして毎号ご紹介しています。

01 家庭生活カウンセラーとしての資質をさらに高めるために！！ １７の会

代表者： 代表世話人　阿部 功
連絡先： TEL ０１３８－５２－２３１５

私たち「１７の会」は、「（社）北海道家庭生活カウンセラー」の二級合格認定者 20 名の仲間と①カウンセラーとしての資質を高めるための「幅広い学習」②「会員相互のコミュニケーションの促進」等々を目的に平成 17 年設立しました。

活動としては、①函館大学の専門講師による「なぜ児童虐待はおきるのか？」等々の講演などの研修会の開催。②世界自然遺産「白神山地ブナ原生林・十二湖」巡りトレッキング等々の親睦会の開催。③介護療養型医療施設でのボランティア活動等の福祉活動の実践を行い、初期の目的に向かって一歩一歩歩んでいます。

「白神山地十二湖」・日暮の池にて

02 はこだて音の視覚化研究会

略して「はこおと」（手話では「はこ・音・研」と表現）

代表者： 理事長 兼平 新吾　　http://www.hakomimi.net
連絡先： 函館市地域交流まちづくりセンター内 事務ブース
TEL ０１３８-２２-９７００

私たち、手話を使う聴覚障がい者にとって、健聴者の会話や就労をはじめ、地震等災害時の情報収集にも苦労します。

社会生活の不便さ、差別等をなくし、「障害のある人もない人も、誰もが安心して暮らしやすい生活」の実現を作るために、平成２０年６月１０日に北海道知事の認証によって設立しました。

手話通訳者等に代わる新しいコミュニケーションの手段として、外部からの音声を認識し、ディスプレイ上にその音声を手話等で表現できるシステムの研究、また逆に手話を文字や音声に変換したりできる先駆的な技術「音の視覚化」システムの開発を公立はこだて未来大学の小野哲雄教授（情報科学）らと共同研究しています。

一日も早く安心して、暮らしやすいまちづくりを進めたいと頑張っています。

03 函館生涯学習インストラクターの会

代表者：会　長　桶田 岩男
連絡先：事務局　大山 勝男　函館市本通２丁目２８－８
TEL/FAX ０１３８-５２－２１３２

＜活動の目的＞
　函館生涯学習インストラクターの会は、会員相互の情報交換及び・親睦を図り、会員の体験活動及び学習を通じて相互に資質の向上並びに生涯学習の普及、発展に寄与することを目的としています。

＜活動の内容＞
・月例会を開催し自己研鑽をしています。（毎月第３月曜日午後６時半から、青年センターにて。）
・平成１７年度生涯学習企画実践活動とし南本通り小学校と連携し、夏・冬期間中に実施しました。
・平成１８年度から函館市主催の『地域子ども教室推進事業』に参加支援の活動を現在も継続しています。
・平成２０年度は、当会が自主企画事業実施・生涯学習の基本や実践を学習する機会として当会では、今後『生涯学習実践講座』を開講します。

＜方針＞
　地域力の欠落した現代社会にあって、今多様な生涯学習の実践活動で団塊世代の指導的な人材が求められています。そのために一般市民を対象にしたリーダーの役割等をテーマにし、講演会・公開講座等を企画します。
★会員は、生涯学習インストラクター等の視覚を有する者、及び生涯学習に関心があり、当会の趣旨に賛同する者で構成しています。今後も時代の変化に応じた生涯学習実践活動を実施します。
　現在、会員を募集しています。

---

04 函館善意通訳会

代表者：会　長　市根井 恵子
連絡先：事務局　高野 富美子
TEL/FAX ０１３８-４５-６５２７　E-mail hakodategoodwill@yahoo.co.jp

　函館善意通訳会は、ボランティア精神に基づいて、国際交流活動や国際観光都市の推進を目的に通訳・翻訳活動を行っています。自分の習得した言語を活かしたい方、会員になりませんか？連絡をお待ちしております。
　また、通訳の必要な方はFAX・電話等で希望日の７日前までにご連絡下さい。派遣料として１回（4時間くらい）3,000円、交通費は依頼者負担になります。詳しくはお問い合わせ下さい。

　現在約40名の会員が活動しています。対応言語は英・中・韓・ロシア語です。英語部では月に２回、ブラッシュアップのために勉強会を行っています。

05 函館ルネサンスの会

代表者： 近堂　俊行
連絡先： 事務局　西堀滋樹　函館市東山 2-4-13　TEL ０１３８-３２-４０５２

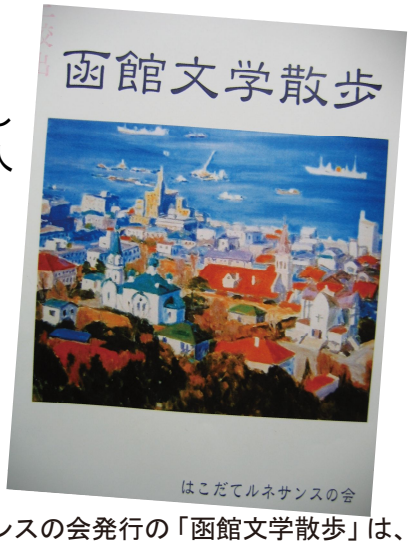
＜活動の目的＞

函館の財産である旧市街地の芸術文化の足跡を発掘し発信する。函館文学に関する調査研究及び講座の開催と函館文学ガイドマップの作製及びその活用をはかる。

＜主な活動の内容、活動状況など＞

1、自主講座の開催
　はこだて文学・社会・歴史に関する調査・研究等の発表
2、文学ガイドマップ「函館文学散歩マップ」の発行
　・文学ガイドマップの作製と活用（フィールドワーク実施）
・文学コースガイドの育成
・文学講座実施

＜加入条件＞なし
＜会員数＞２５人



はこだてルネサンスの会発行の「函館文学散歩」は、まちセン１階ｃａｆｅオタジィラにて発売中です。

06 ＮＰＯ法人 セラピア 障がい者自立支援センター

代表者：　理事長　平田　聡　　http://wwwc.ncv.ne.jp/~selapia/
連絡先：　TEL　０１３８－４５－１２８７
　　E-mail selapia@msc.ncv.ne.jp

私たちは、障がい者の社会参加を応援します

◎設立の目的
　在宅の心身障がい者を対象に社会参加の場を提供することにより、日常生活における自立を促し、明日への活力を養います。
◎就労継続支援事業　（Ａ型もしくはＢ型）
　障がい者自立支援法の国指定を目指します。
◎カフェで就労体験をします
　・ウェイトレスの体験
　　（オーダーなどの接客　や精算会計）
　・厨房作業の体験（お皿洗い・調理）
◎軽作業を行います
　・ポプリの袋詰め　・木製イカマスコット作り
　・福祉マップ製作など
◎集いの場を提供します
　・ふれあい広場の開催（音楽会などのイベント）
　・子育てサロンの開催～貸し切り利用が出来ます。

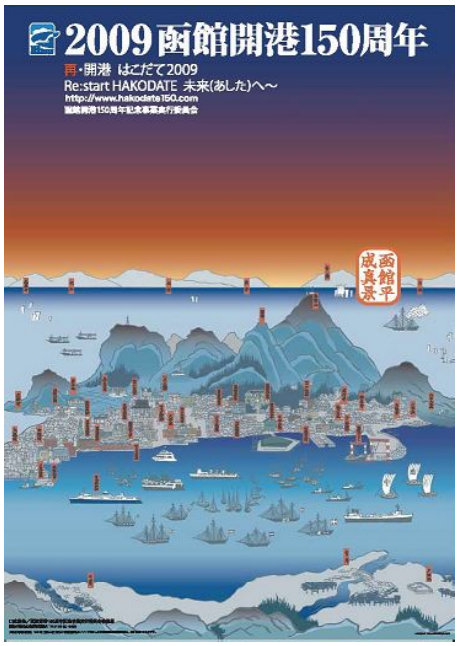
○賛助会員募集
　活動に賛同していただける市民の皆さんを募集しています。個人会員は、一口千円、企業は一口１万円です。
　障がい者の社会参加、応援してください！

セラピアの利用料金

登録料　賛助会費
利用料 1,000 円 /1 日・ 500 円 / 半日
（事業者指定後は１日に 470 円）
昼食　契約ランチ　実費
※3 ヶ月はお試し期間となります

利用時間
１１：００～１７：００
営業時間
１０：００～１８：００

開港150周年記念事業について

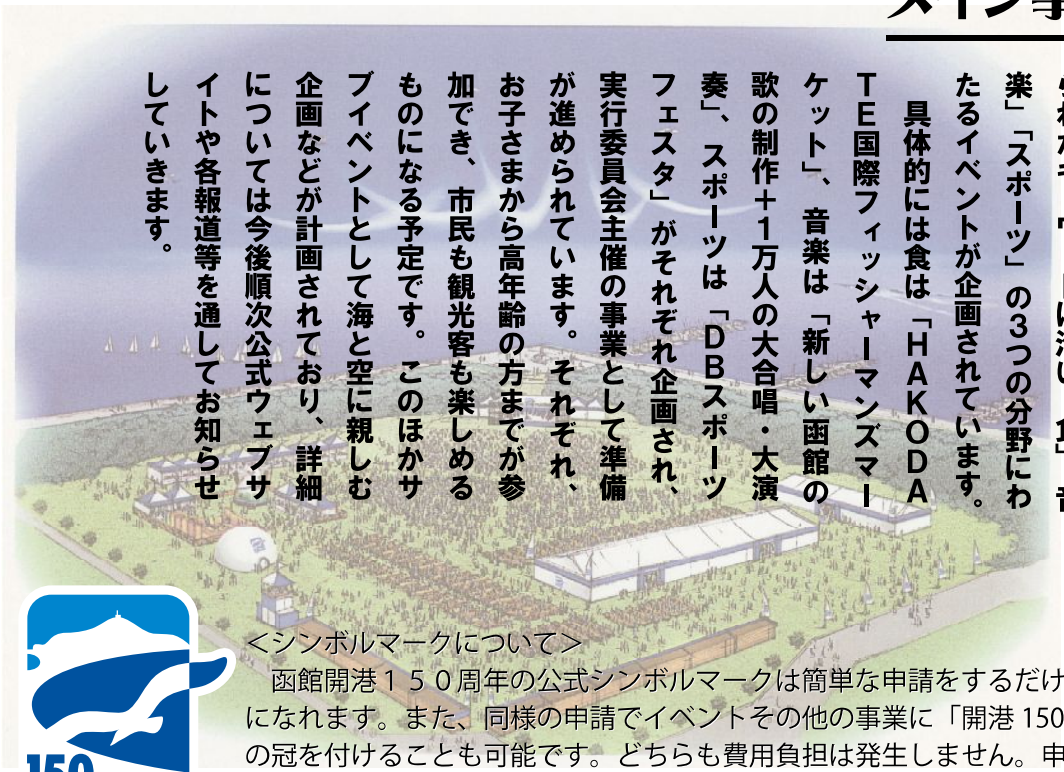


２００９年は函館が国際貿易港として諸外国に開かれてから１５０周年の節目に当たります。この「開港１５０周年」という歴史的な年を祝うため、昨年から函館市と各機関・団体などからなる函館開港１５０周年記念事業実行委員会が組織され、市民ボランティアスタッフとともに様々な企画が進められてきました。メイン事業としては８月８日から１６日までの期間に緑の島をメイン会場に大規模な記念イベント「Ｄｒｅａｍ Ｂｏｘ １５０（ドリームボックス イチゴーマル）」を開催します。

メイン事業について

「Ｄｒｅａｍ Ｂｏｘ１５０」のイベント名には、「ユメ」のある「ハコ」ダテにしたい！との思いが込められています。内容としては、市民スタッフの会議によって決められたキーワードに沿い「食」「音楽」「スポーツ」の３つの分野にわたるイベントが企画されています。

具体的には食は「ＨＡＫＯＤＡＴＥ国際フィッシャーマンズマーケット」、音楽は「新しい函館の歌の制作＋１万人の大合唱・大演奏」、スポーツは「ＤＢスポーツフェスタ」がそれぞれ企画され、実行委員会主催の事業として準備が進められています。それぞれ、お子さまから高年齢の方までが参加でき、市民も観光客も楽しめるものになる予定です。このほかサブイベントとして海と空に親しむ企画などが計画されており、詳細については今後順次公式ウェブサイトや各報道等を通してお知らせしていきます。



150th ANNIVERSARY HAKODATE PORT

＜シンボルマークについて＞

函館開港１５０周年の公式シンボルマークは簡単な申請をするだけでどなたでもご使用になれます。また、同様の申請でイベントその他の事業に「開港 150 周年記念連携事業」の冠を付けることも可能です。どちらも費用負担は発生しません。申請については公式サイト「ハコダテ 150」をご覧になるか事務局にお問い合わせください。

＜公式サイトについて＞

函館開港 150 周年公式サイト「ハコダテ 150」は、ボランティアの一般市民によって運営されています。開港 150 周年記念事業全般の進行状況を直ちに掲載し告知しているほか、函館の気になるお店や穴場情報、イベント情報やイベントレポート、季節の写真などが幅広く毎日更新されています。「ハコダテ 150」で検索してください。

函館開港 150 周年記念事業実行委員会事務局
（函館市港湾空港部管理課内）0138（21）－3493

まちのチカラになりたい、
まちのチカラを求めたい、
まちのチカラを応援したい

はこだて「まちのチカラ」サポートデスク

アクティブシニアの活躍も応援！

定年後の「生き甲斐」について

佐久間正昭（５７才）

●活動のきっかけ

郷里を離れ３６年余り。定年も近づき「さてこの先は？」と考え、最初に脳裏をよぎったのは子供の頃の川遊びでした。北海道札幌市の出身で市内の中央を流れる豊平川の水にたっぷり浸かり育ちました。一生の仕事として船乗りを選択し、この３６年間海や港での仕事に携わり、船上での仕事も約２０年経験しました。その関係で、国内の町や港を見て周り、色々な人達とも交流することが出来ました。第二の就職活動もスムーズにきまり、休みの時など長年見慣れた海や港も懐かしく、時折、港に遊びに行くこともしばしばありました。

そこで感じたのは「海が汚れているなー」というため息にも似たものでした。現役の頃はそんなことを考えたこともなかったのですが「灯台元暗し」のとおり、足下が見えていなかったのでしょう。久しぶりにのぞき込む海は確かに汚れていました。

●新たな挑戦・・・

長年お世話になってきた海や港が悲しく見えたそんな時に、ＮＰＯ活動で河川環境維持の活動をしている方に出会いお話を聞くことが出来ました。釣りの好きな方で余暇を利用して河川の清掃活動をしているとのことでした。そこで最近の河川は、災害防止工事や生活排水、産業廃棄物の不法投棄等で水質は悪化し、魚の生存環境が厳しく、多くの海や川が悲鳴を上げていることを知りました。お話を聞いているうちに仕事をしながらでも自分にもお手伝いが出来るかもしれないと思いました。「自分も定年後は何か社会貢献が出来れば」と考えていた矢先でもあり、慣れ親しんだ海や港を少しでもきれいにすることが出来ればと入会することにしました。しかし、入会するには、河川環境保護指導員試験を受けなければならないことを知り愕然としました。試験は青森県弘前市で行われ、講習を受け試験に臨み、なんとか合格して晴れて会員になることができました。

●活動について

私が活動している組織は、ＮＰＯ法人河川環境基金といいますが、全国に３１支局、３５支部、海外に６支局があり、それぞれの地域の状況に応じて活動しています。道南では、海を含めた河川、湖沼の清掃、魚道の整備、不法投棄の監視、エコバイオブロック（河川環境保護指導員が開発した水質浄化作用のあるブロック）の普及等を行っていますが、函館支部として、住吉港や大森浜等の清掃活動、函館市内の不法投棄の監視をさせていただいています。また、エコバイオブロックの性能試験のため函館市地域交流まちづくりセンターに金魚を入れた水槽を設置して大腸菌等の水質状況を調査しています。

●生き甲斐とは

「常に活動して進路を求めて止まざるは水なり」戦国時代に活躍した黒田如水の教訓の一つだそうです。何か一つでも地域に貢献できる熱中できるものがあることは、人生にとって「生き甲斐」のあるものであり、働く喜びとは違った感激にも似た充実感を覚えるのではないかと思っています。

「生き甲斐」は人によって感じ方や考え方が違い個人差はありますが「生活の活力や張り合い」「生きている喜び」で、人と人、心と心のふれあいの中で感じるものだと思います。

●会社人間から社会人間に・・・

在職にくらべ、飛躍的に自由時間がふえる退職後の人生を有意義にするものにするためにも、仕事が趣味であると言わずに今からでも仕事以外に趣味を持つことも必要です。何事にも積極的に・・・そのためにも在職中から地域に目を向け地域社会に参加してみるのも良いと思います。

今、自分が出来ること、やれること、また、してもらいたいこと、教えてもらいたいことを考えれば、自ら答えが出てくるのではないでしょうか・・・

現職の時代の時間よりも多い時間が退職後には待っています。有意義で豊かな人生を生き生きとした青年の顔で過ごしたいものです。

http://www.hakomachi.net

まちセン３階にて「はこだて『まちのチカラ』サポートデスク」を開設しています。
窓口は、年中無休　9：00～17：00　地域のチカラを求めています。

cafe オタジィラ　染木加奈子

たくさんの「ありがとう」とたくさんの「おかげさま」に支えられて、cafe オタジィラはこの度、オープンから３年目を迎えることができました。お心遣いやお声等々寄せていただいたみなさま本当にありがとうございます。これからも、たくさんのみなさまがたくさんの気持ちの良い時間をオタジィラで過ごしてくださいますように･･･。スタッフ一同心よりお待ち申し上げております。ari(g)ato･･･♡･･･ota(g)ira

カフェOPEN: 10：30－18：00　定休日：水曜日
ブログ：URL：http://hakomachi.com/info07

ota(g)ira

センター長のつぶやき

丸藤　競

私は最近、「居場所」のことについて考えることが多くなっています。切っ掛けは、この一年間をかけ、さわやか福祉財団の研修に参加したことでした。

さわやか福祉財団とは、今の時代感覚に相応しいよう、お互いの個性やプライバシーを認め合ったうえで、障がいのあるなしに関わらずどんな人も精神的に自立した人間同士として世代を超えてふれあい助け合っていく〝共助の社会〟の実現を目指して活動をしている団体です。理事長の堀田力さん（ロッキード事件の時、田中角栄元首相を取り調べた、元東京地検の検事です）の理念に共鳴した多くのボランティアが活動を支えています。

その多岐にわたる活動の中の一つが、「ふれあいの居場所」づくりです。

「居場所」とは、誰もが自由に集い、助け合い、自らの生きる意欲を高めていく場。そこでは立場や世代による仕切りはなく様々な人とふれあうことができ自分の存在を認識したり経験や能力を生かしたりすることができます。いつでも立ち寄れ、いつでも帰れ、自由に過ごせます。ある人は元気をもらい笑顔を取り戻し、ある人は仲間をつくりまたある人は心のやすらぎを得るのです。

今の日本人が引き起こす問題の多くは、孤独からきていると言われています。多くの人は、巨大な暗渠の中で苦しんでいます。そうした日本社会の暗闇にぽっと灯りを灯すのが「居場所」です。仕切られない居場所には人が本来持っている力が夢や笑顔となってあつまります。「居場所」は夢や笑顔のたまり場なのです。

そんな所、本当にできるの？と言う人もいるでしょう。でも私は、まちづくりセンターをその灯りの一つにしたいと思っています。そして、ここに訪れる皆さんがそれを望めば、必ず実現できると信じています。

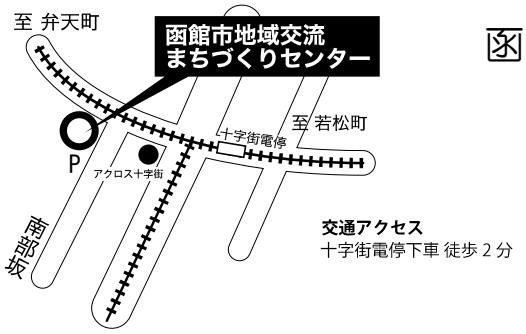
I have a dream. Yes we can!

函館市地域交流まちづくりセンターは、
ＮＰＯやボランティアなどの活動の場、
市民交流の場、
地域情報の発信の場
としてさまざま活動にご利用いただけます。

市民活動やＮＰＯについて相談したい方
市民活動やＮＰＯの情報が欲しい方
市民活動やＮＰＯの会報やチラシを作りたい方
打ち合わせ場所がほしい方
研修会や展示会場を探している方
観光情報や地域情報が欲しい方
ご利用をおまちしております。

開館時間：　午前９時～午後９時
休館日：　年末年始（12/31 ～ 1/3）＊器材点検のため月１回程度臨時休館する場合があります。

フロア	区分	ご利用料金		備考
		単位	金額	
市民交流フロア／2F	研修室（A，B）	１室１時間までごとに	500 円	24 人利用可
	フリースペース	１日につき	10,000 円	約 272 ㎡
市民活動支援フロア／3F	会議室（A，B）	１室１時間までごとに	300 円	24 人利用可
	ロッカー（大）	１個１ヶ月につき	400 円	
	ロッカー（小）	１個１ヶ月につき	200 円	
駐車場		２時間無料、超過 30 分までごとに 100 円 ＊駐車場は、当センター裏側、入り口が南部坂沿いにあります。		



函館市地域交流まちづくりセンター
〒040-0053　函館市末広町４番 19 号
TEL 0138-22-9700
FAX 0138-22-9800
E-mail toiawase@hakomachi.com
URL http://hakomachi.com/